



令和4年4月27日

奈良県内経済情勢報告

(令和4年4月判断)

1. 総論

【総括判断】

「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回 (4年1月判断)	今回 (4年4月判断)	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	→

(注) 令和4年4月判断は、前回4年1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回 (4年1月判断)	今回 (4年4月判断)	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
雇用情勢	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
設備投資	3年度は前年度を上回る見込み	3年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	3年度は増益見込み	3年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や供給面での制約、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

- **個人消費** 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」
- **百貨店・スーパー販売**は、感染症の再拡大により、衣料品などの売上が減少していることから、低調に推移しているものの、足下では客足が回復傾向にあり、持ち直しの動きがみられる。
- **コンビニエンスストア販売**は、感染の落ち着きにより、客足や売上が回復傾向にあることから、堅調に推移している。
- **ドラッグストア販売**は、冬物商品や医薬品を中心に堅調に推移している。
- **ホームセンター販売**は、DIY 関連用品やリフォーム関連用品を中心に堅調に推移している。
- **家電大型専門店販売**は、半導体不足の影響により、在庫不足となる商品もあることなどから、低調に推移している。
- **乗用車新車登録届出台数**は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。
- **観光動向**は、感染症の再拡大により、宿泊者数が減少するなど弱い動きとなっているものの、まん延防止等重点措置の解除などにより、人出が増加していることから、持ち直しの動きがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の再拡大により、客足、売上ともに減少し、厳しい状況が続いた。足下では、感染に落ち着きが見られることから、客足が回復してきており、服飾品を中心に持ち直しの動きが見られる。(百貨店・スーパー)
- 感染症の再拡大により、客足、売上ともに減少し、厳しい状況が続いた。足下では、感染に落ち着きが見られることから、客足が回復してきており、業況は上向いている。(コンビニエンスストア)
- 寒い日が多かったため、手袋やカイロなどの冬物商品が好調に推移。足下では、湿布薬などの医薬品が足や腰を痛めた観光客によく売れた。(ドラッグストア)
- 今年の春は寒い日が多かったため、園芸用品が低調に推移しているものの、DIY 関連用品やリフォーム関連用品は引き続き好調に推移している。(ホームセンター)
- 半導体不足の影響により、ガスコンロやドラム式洗濯機などで品薄状態が続いており、厳しい状況が続いている。(家電量販店)
- 感染症の再拡大により、宿泊客が減少しており、厳しい状況が続いたものの、まん延防止等重点措置が解除されたことなどにより、修学旅行が予定どおり実施されたことなどから業況は回復している。(宿泊)
- 3月以降は、感染に落ち着きが見られることなどにより、日帰り旅行客が増加しているため、レストランのみ利用していく顧客が増加している。(宿泊)

■ **生産活動** 「持ち直しつつある」

鉱工業生産指数は、供給面での制約や原材料価格高騰の影響は引き続きみられるものの、輸送機械、金属製品、化学などが上昇している。

生産活動は、自動車増産に備えての自動車関連製品の受注が増加していること、半導体製造装置関連やEV 向け各種製造装置関連の受注が依然として旺盛であることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 世界的な EV 増産を背景とした二次電池関連の需要は継続しており、生産はフル稼働の状況であるほか、販売実績も前年より大幅に増加している。一方、鋼材価格の高騰も継続しているが、受注残を速やかに処理するためにも生産スピードは全く落とせない状況である。(生産用機械)
- 自動車業界における部品先行手配の動きにより、自動車部品メーカーから大口受注を獲得したほか、旺盛な半導体需要を受け、パワー半導体製造装置関連も好調を維持している。一方、上海などでのロックダウンの影響で、取引先都合により輸出できない事態が発生しており、今後の影響を注視していく必要がある。(生産用機械)
- 前期は11月以降挽回生産に入り売上も回復基調であったが、今期は長引く半導体不足や、中国における新型コロナ再拡大の影響により、取引先メーカー各社が相次ぐ減産となったため、想定を下回る売上となった。(輸送機械)

- 半導体製造装置部品の需要が依然として旺盛であるほか、自動車メーカーの増産体制を受け、今期前半は自動車向け製品の受注が多かったものの、足下では減産の影響により落ち着いてきている。(はん用機械)
- ジェネリック医薬品の増産依頼により販売量は上昇基調にあるが、原材料価格が前期と比較して10%程度値上げされており、今後も更なる値上げが予想される。(化学工業)
- 前年は、食料品価格改定による駆け込み需要やコロナによる内食需要により、食料品向け製品の引き合いが高まったものの、今期はその反動減で売上高が数%減少している。原材料のナフサ価格は前年比50%以上上昇しており、今のところ生産活動への影響はないものの、確実に収益圧迫となっている。(その他製造)

■ 雇用情勢 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 需要の増減に対しては、非正規職員で対応しており、現状は若干不足気味。特に、生産ラインの人材が不足しているものの条件に合う人材が集まらない。正規職員については、通常通りの計画採用。(生産用機械)
- 生産ラインが24時間稼働しており、生産部門の現場作業員が慢性的に不足している。今年度までは春の定期採用のみで対応していたが、非正規職員の不足を補うべく、来年度は不定期の募集を検討している。(その他製造)
- 休業をしていないため雇用調整助成金は活用していないが、現状従業員は過剰気味である。(宿泊)
- 感染症の影響により、客足が減少しているため、従業員は過剰気味。過剰感を解消するために、今後配置転換を行う予定。(ドラッグストア)
- 雇用調整助成金の動向として、1月からの感染拡大により、申請を1度やめていた事業所からの再申請が増加している。(公的機関)

■ 設備投資 「3年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和4年1~3月期

3年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。業種別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「3年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和4年1~3月期

3年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。

【その他の項目】

- 住宅建設 新設住宅着工戸数でみると、持家、分譲において前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

- 公共事業 前払金保証請負金額でみると、国、独立行政法人、県、市町村のすべてにおいて減少していることから、前年を下回っている。

- 企業倒産 倒産件数は足下で前年を上回っている。負債総額は前年を上回っている。

- 企業の景況感 法人企業景気予測調査(令和4年1~3月期調査)の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、4年4~6月期は「上昇」と「下降」が均衡、4年7~9月期は「上昇」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課
TEL 0742-27-3162 (直通)